

糖尿病・内分泌・代謝内科

【診療科概要】

部長	檜崎 晃史 (ならさき こうし)
部長	村尾 和良 (むらお かずよし)
医師数	常勤医師 3名
資格等	認定内科医 3名、総合内科専門医 2名、指導医 2名 (日本内科学会) 糖尿病専門医 2名、指導医 1名 (日本糖尿病学会) 病態栄養専門医 1名、指導医 1名 (日本病態栄養学会) プライマリ・ケア認定医 1名、指導医 1名 (日本プライマリ・ケア連 合学会)

糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症など、生活習慣病のカテゴリーに含まれる代謝性疾患の診療を主に担当しているが、甲状腺疾患などの内分泌疾患も併せて診療している。

鳥取県保険医療計画に於いて当院は、糖尿病の急性増悪時治療、並びに専門治療を行う医療機関と位置付けられており、「かかりつけ医」との病診連携を目的とした糖尿病地域連携パスでは専門医療機関としての役割を担っている。

眼科、神経内科、心臓内科、心臓血管外科、皮膚科、歯科口腔外科、血液浄化室などの関連各部門との診療連携、並びに医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、視能訓練士で構成される糖尿病サポートチーム (Ditabetic Support Team・DST) での糖尿病療養指導支援を車の両輪に、チーム医療を実践していくことが求められている。

また1型糖尿病、小児思春期糖尿病、妊娠糖尿病についても、小児科、産婦人科などの関連診療科と連携しながら診療を行っている。

【一般目標】

新医師臨床研修の2年間を終えた後、専攻医として、さらにより専門的内科診療技術を修得する、あるいは総合内科専門医・糖尿病専門医などをめざす。

【行動目標 (内容・方法)】

「鳥取大学総合内科専門医プログラム」の関連施設として、日本内科学会認医制度審議会の定める「新専門医制度 研修カリキュラム」に準じた研修を行う。

臨床医学の進歩と社会・医療のニーズに対応できる医療人となるために、研修期間

に応じて、総合診療、消化器病学、糖尿病・内分泌・代謝病学、呼吸器病学、血液病学、腫瘍病学および感染症学における基礎的・専門的な知識と技術を修得する。外来診療・入院診療に指導医とともに従事する。また、初期臨床研修医の指導ができる能力取得を目指す。将来糖尿病専門医を目指す場合は、糖尿病サポートチームの一員としてチーム医療の実践に努めていただくと共に、小児糖尿病サマーキャンプへの参加を必須の研修項目とする。

【週間予定】

	午前	午後	その他
月	外来業務 病棟業務	病棟業務	糖尿病カンファランス
火	外来業務 病棟業務	病棟業務	
水	外来業務 病棟業務	病棟業務	
木	外来業務 病棟業務	病棟業務	
金	外来業務 病棟業務	病棟業務	内科総合カンファランス